

30年間の神戸大学と中国の友好登山を振り返って

日本神戸大学山岳会副会長 山田健

私が初めて中国・西藏の山に行ってから30年余りになる。最初に行ったのは1986年、ブータンとの国境近くにある庫拉崗日峰(7554m)である。庫拉崗日峰は、拉薩から印度のカルカッタに通じる街道から望見できるので、その存在だけは昔から世界に広く知られていた。しかし、ほとんど写真がなく、謎に包まれた山であった。当時、西藏の未踏峰が外国人に開放されはじめ、全世界の登山団体はこれら魅力ある山峰の登山許可取得に懸命になっていた。その中でも、標高が7500mを超える庫拉崗日峰は世界に残っている未踏峰の中でも貴重な存在であり、多くの登山団体から登山希望が中国登山協会にもたらされていた。神戸大学山岳会もその一つであり多くのライバルがいた中、神戸大学の平井一正教授が熱心に働きかけを行い、中国登山協会の史占春主席（当時）のご厚意により私たちが登山許可を取得するに至った。このような苦勞の末、初めて目標の山を見たとき、その偉大さ、美しさに感動したのを昨日のことのようには覚えている。登山を開始して約一か月、長大な氷河と急峻な氷壁を越えて神戸大学登山隊は1986年4月21日、庫拉崗日峰の初登頂に成功した。このときの登山では中国登山協会の于良璞先生が連絡官として同行し、初めて中国で登山する私たちに対して絶大な支援をしていただいた。また高所協力員として、当時はまだ中国地質大学（武漢）の大学院生であった李致新さん、王勇峰さん、張志堅さん、馬欣祥さん、陳守建さんの5人が献身的に荷揚げなどに協力された。彼らのお陰で登頂が成功したといっても言い過ぎではない。その後、陳さん以外の4人の方々は周知のとおり中国登山協会に入り、今では協会の重要な地位を占めておられる。

1986年の庫拉崗日峰登山以降、中国登山協会、中国地質大学（武漢）と神戸大学山岳会の30年間に及ぶお付き合いが始まった。この間、神戸大学が西藏、四川で行った登山は次のとおりである。

1988年 四川 雀児山（6168m）初登頂 神戸大学・中国地質大学（武漢）合同

2003年 西藏 崗日嘎布山群 若尼峰（6882m）登頂断念

2007年 西藏 同山群 若尼峰周辺の偵察

2009年 西藏 同山群 洛布青峰（6805m）初登頂 神戸大学・中国地質大学（武漢）合同

2015年 西藏 念青唐古拉山群 達日峰（6330m）初登頂 神戸大学・中国地質大学（武漢）合同

この記録を見てもわかるように、神戸大学山岳会は常に「未知への挑戦」を念頭に未踏峰の初登頂を目指している。私たちの価値観はチョモランマよりも6千米の未踏峰が優先する。私はこれらの登山のうち、2007年、2009年、2015年の登山に参加している。特に2009年の崗日嘎布山群の洛布青峰の初登頂は印象深い。

崗日嘎布山群は西藏東南部の印度との国境付近に位置し、世界で最も降雪量が多く巨大氷河が発達した地域である。2003年に神戸大学が登山隊を派遣するまで誰一人として登山

をした者はおらず、まさに前人未踏の秘境であった。2003 年は同山群最高峰の若尼峰（6882m）を目指したが、登山ルートが非常に危険であり天候も悪かったことから登頂を断念せざるを得なかった。神戸大学としてはこのままでは終われない。2007 年にはもう一度現地に行き今度は私自身目で若尼峰の可能性を確認した。しかし、若尼峰は登山ルートの危険性から無理と判断し、代わりにその隣にある山群第 2 位の高峰である洛布青峰を目標とし、2009 年に再度登山隊を派遣した。このときは、李致新中国登山協会副主席（当時）の提案で神戸大学と中国地質大学（武漢）との合同登山となった。合同登山隊は困難な氷河クレバス地帯や氷瀑を日本人、中国人が協力しながらルートを開き、11 月 5 日と 7 日に洛布青峰の初登頂を果たした。これは崗日嘎布山群全体でも最初の登頂であり、10 年を経た現在においても同山群での唯一の登頂記録となっている。この成功は日本のみならず世界の登山界から高い評価を得た。私がこの 2009 年の登山が最も印象的であった理由は初登頂に成功したことだけではなく、この登山を通じて多くの中国の友人が新たにできたことにある。ともに困難を乗り越えて成功に導いた中国地質大学（武漢）の董范隊長と牛小洪副隊長はまさに盟友であり、その後の 2015 年の登山でも一緒に登った。学生で西藏族の徳慶欧珠、次仁旦達の二人は素晴らしい技術と体力で頂上へのルートを切り開いてくれた。そのほかの漢人学生の隊員も皆素直で陽気で親切的な登山仲間であった。洛布青峰登山後には彼らを日本に招待し日本の山にも一緒に登った。合同登山隊の中国地質大学（武漢）メンバーは今では私の大切な友人である。また、中国登山協会の李豪傑部長、中国地質大学（武漢）の趙冀娟女史、西藏登山学校の呢馬次仁校長（当時）、その他にも多くの友人に私たちの登山を陰で支えてもらった。これらの中国の友人たちとの交流は私にとってまさに宝物であり、彼らの顔を思い出すたびになつかしさに顔がほころぶのである。

昨年（2016 年）10 月 23 日、北京において「庫拉崗日峰登頂 30 周年祝賀会」を開催した。日本からは当時の平井一正総隊長（85 歳）をはじめ元登山隊員たちが参加した。中国登山協会からは于良璞先生、陳尚仁先生、李致新主席、馬欣祥部長、李豪傑部長が出席された。于先生とお会いするのは実に 30 年ぶりであったが、お会いしたとたんにお互い「おーっ」と声を上げ抱き合った。先生はお元気そうで、30 年前日本人隊員の間で噂したように「牛を捻りつぶしそう」な立派な体格は昔のままであった。祝賀会では庫拉崗日峰登山の映像を見ながら昔話に花が咲き、和気藹々と楽しい会となった。

この祝賀会で一つのハプニングがあった。予定では神戸大学から中国登山協会へ記念品を贈ることになっていた。その記念品とは、この日のために私が 3 か月かけて描いた庫拉崗日峰の油絵（20 号）であるが、北京に来るときに上海からの飛行機の託送荷物に預けたが、こともあろうに上海空港に置き去りにされて祝賀会に間に合わなかったのである。結局、祝賀会が終わったあとの深夜に画が到着したが、私としては祝賀会で皆さんに披露できなくて非常に残念であった。そこで、誠に勝手ながらこの「山野」の紙面をお借りして中国の読者の皆さんに広く披露することをお許し願いたい。話は逸れるが、油絵は登山と並んで私の大好きな趣味である。これまで日本の山々のほかに庫拉崗日峰や洛布青峰、若

尼峰、拉薩の街など西藏の風景を油絵に描いてきた。登山をすることは、登山そのものの楽しみとともに、帰ってからその登山で見た風景の油絵を描くことの楽しみがあり、二重に楽しむことができるのである。また、油絵を通じて、中国の高名な山岳画家である陳大衛氏とも知り合うことができた。陳氏が描く風景画は私の良い手本となっている。

私はすでに 60 歳を過ぎており、もう高い山には登れないだろうが、第二の故郷といえる西藏のことを思い出すたび心が揺れる。これからもたびたび彼の地を訪れ、中国の友人たちと交流を深めたいと思っている。



庫拉崗日峰と登山隊の荷物を運ぶ馬



氷河末端の凍結した湖から見上げる朝の庫拉崗日峰
手前の氷河を源頭まで登り、右の稜線を登った



氷壁を越えて第二キャンプに到着した隊員 右より李致新、山田（筆者）、王勇峰、船原隊員



4月21日アタック 真っ白な庫拉崗日峰頂上が前方に見える



庫拉崗日峰のベースキャンプに集合した日本・中国の全隊員



氷雪を纏った洛布青峰 左の稜線から登頂した



中国地質大学（武漢）の学生張群（左）と筆者（右） 洛布青峰の第一キャンプにて



筆者近影 洛布青峰の第一キャンプにて



洛布青峰のベースキャンプにて全員集合



初登頂を果たし、お互いの健闘を称える日中隊員 洛布青峰の第二キャンプにて



朝日を受ける洛布青峰



2014 年 4 月 来日した中国地質大学（武漢）メンバーと氷ノ山（1510m）に登った



2015 年神戸大学山岳会は創立百周年を記念して中国地質大学（武漢）と合同で念青唐古拉山群の達日峰に登山した。ベースキャンプにて



庫拉崗日峰登頂 30 周年祝賀会



30周年纪念品 绘画「向天空」

1986年3月21日，神戸大学西藏学术登山队，从西冰川末端的冻结的冰川湖（5260米）开始出发，向着未登峰库拉岗日开始了攀登。

早晨，以湛蓝的天空为背景，能够看见峰顶。

5位中国登山协会朋友，站在冰川堆石上。

由于他们献身的协助，4月21日16时15分，我们首次登上了顶峰。